

授業科目名： 海外演習 B（東京農工大学）		単位数 2 単位	担当教員名： 教授・准教授・講師
			担当形態： 単独
配当年次： 1・2・3・4 年次前期・ 後期	授業形態： 演習科目		開講形態： 東京農工大学独自開講
授業のテーマ及び到達目標： 海外で研究活動や診療活動に参加することにより、国際的に通用する思考能力、実践力を身につけることを到達目標とする。			
授業の概要： 渡航期間が 2 週間程度あるいはそれ以上の期間、海外の研究機関において研修及び共同研究、調査を行う、あるいは海外の診療施設において臨床実習に参加し、国際性を育成する。			
授業計画： 渡航期間が 2 週間程度あるいはそれ以上となる期間、海外で研修を受け、世界で活躍する獣医師としての国際性を育成する。 海外での研修とは、以下のようなものを指す。 <ul style="list-style-type: none"> 海外の研究機関において研究を中心とした研修、共同研究、調査などを行い、海外の研究者から研究指導及び技術指導を受け、知識と技術を身につける。 海外の臨床施設において、臨床実習に参加し、海外の臨床獣医師から臨床に関する指導を受け、最先端の臨床に関する知識と技術を身につける。 海外研修の成果は帰国後プレゼンテーションを行い発表すると共に、学んだことをより深く理解するために成果報告書やレポートを作成する。			
(打出 毅) 呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン (柴田 秀史) 中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学 (渋谷 淳) 発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル (白井 淳資) 家畜伝染病、伝染病制御と消毒、病原体検出 (竹原 一明) バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場 (永田 典代) 人獣共通感染症、ウイルス、病原性因子、動物感染モデル、新興・再興感染症			

(藤川 浩)

食中毒、腐敗、予測モデル、リスク評価、食品安全

(町田 登)

不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化

(水谷 哲也)

家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症

(李 天成)

人獣共通感染症、バキュロウイルス発現系、疫学

(渡辺 元)

ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス、内分泌攪乱

(小山 哲史)

動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度

(佐々木 一昭)

薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療

(佐藤 俊幸)

至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動

(清水 美希)

運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物

(鈴木 和彦)

病理、疾患モデル、線維化、腎臓

(田中 知己)

繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜

(田中 綾)

医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術

(谷口 隆秀)

発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断

(永岡 謙太郎)

ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化

(西藤 公司)

皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素

(林谷 秀樹)

集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態

(福島 隆治)

心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物

(古谷 哲也)

動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御

(吉田 敏則)

脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血、がん

(石原 加奈子)

食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析

(井手 香織)

血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境

(大松 勉)

感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫

(大森 啓太郎)

免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬

(岸本 海織)

画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤

テキスト：特になし

参考書・参考資料等：特になし

学生に対する評価：帰国後に実施報告のプレゼンテーションおよび成果報告書の提出を求め、研修、研究、診療活動への参加することで得られた研究成果や研修成果を主指導教員が評価する。また、受け入れ先研究機関等の研究者にも評価を依頼し、これらを総合して評価する。